

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 あじさい		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	平成27年6月15日	評価結果市町村受理日	平成27年8月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170501795-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170501795-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 7 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。  
 具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。  
 また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄南平岸駅から徒歩で8分程の住宅地に位置する3階建て3ユニットのグループホームです。近くにテレビ局や公園、小学校、商店などがあり、利便性に優れています。運営者が関連法人を含めて4つのグループホームを運営していることから、互いに協力や情報共有を行いながらサービスの改善に努めています。また、各種の記録や介護計画の作成が丁寧に行われています。地域交流は、町内会や近隣の学校との交流が活発に行われています。また、運営推進会議でも町内会や老人クラブ、利用者家族の積極的な参加が得られています。家族とのやり取りをきめ細かく記録し、運営に反映しています。ケアマネジメントは、3ヵ月毎にセンター方式のアセスメントシートをきめ細かく作成し、全職員の意見を集約した介護計画を作成しています。医療支援や終末期の支援も充実しており、利用者や家族の安心につながっています。外出支援は、法人で運転手付きの大型の車を用意し、景勝地や公園、外食など様々な場所に頻繁に出かけることができ、利用者が楽しく参加しています。入浴や外出などに際しては、利用者とその人らしい暮らしを継続できるよう、個々の希望を反映しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を把握し、日々、実践している。理念について職員間で話題に上がることも多々あり、日頃から意識して取り組んでいる。更に理念から抜粋した目標を毎月掲げ、実践している。	4項目からなる理念の中に「地域に愛され馴染みのある生活」という文言を入れ、地域密着型の理念として確立しています。理念を共用部分に掲示し、毎朝唱和して共有し、実践しています。ユニット毎の目標も定めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、近隣の小中学校と世代間交流を図ったり、地域とのつながりを大切にしている。毎日、犬の散歩をしている方は顔なじみになり入居者の方達に犬を見せてくれようと立ち止まってもらっている。	利用者が地域の花壇づくりや廃品回収などの行事に参加しています。近くの小学校のイベントを見学したり、中学生の体験学習を受け入れています。会話や清掃などのボランティアの方が事業所を訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の散歩の中でも地域の方と会話し、認知症の方への接し方を伝えることもある。運営推進会議や町内会の会合等でも認知症について理解してもらえるよう、様々な場面を話しイメージできるよう伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	職員が出席する機会もあり、取り組みに対し労いの言葉やアドバイスを受けている。家族は仕事の都合や高齢という事もあり、出席者が偏る傾向があるが参加呼びかけは行っている。	会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、老人クラブ、複数の家族の参加を得て、防災や看取り、感染症、外部評価などをテーマに意見交換しています。議事録を家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市町村の担当者と日頃から良好な関係を築くことが出来ており、ケアサービスについてのアドバイスを受けることもある。特に区の保健課職員との面談や相談は頻回で気軽に行われている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、市には介護保険更新手続きなどで随時相談しています。市や区の管理者会議でも行政担当者や情報交換しています。市から大規模災害時の地域高齢者受入れの相談も受けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	冬場は施錠されていることが多いが、夏場の日中は施錠されていることが少なく誰でも自由に外へ出ることが出来る環境になっている。又、暗証番号を開錠できる入居者の方もおり、職員は見守りには十分気を付けている。	重要事項説明書に身体拘束を行わない旨を明示し、年に1回程度、身体拘束防止に関する勉強会を行っています。ユニットの出入り口は安全のため施錠していますが、見守りにより利用者の外出希望を察して、同行して開錠するようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修が多く学ぶ機会も多い。ユニット内でもどのようなことが虐待にあたるかなどを日頃から職員同士で話し合うことも多い。虐待に対し意識は高い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用していた方が過去にいた為、現場で実際に勉強する機会となった。今後も様々な制度を活用したいという相談も増えてくると思われる為、学ぶ機会を増やす必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点については、理解・納得が出来るまで何度でも説明を行っている。日頃から入居者の方のなにげない様子についても説明しており、相互に話し合いやすい環境づくりや信頼関係の構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を職員や管理者に自ら伝えてくる方が多い。意見箱も設置されており匿名で意見が言えるようになっている。入居者と家族の意見が大いに運営に反映されていると感じることも多い。	運営推進会議や家族の来訪時に意見を聞き、得られた意見や要望を「家族対応記録簿」に記載し、職員間で共有しています。また、里の家だよりを毎月作成し、家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員は入居者の方の代弁者として管理者に思いを伝えたり、職員の意見を述べている。代表者と医療機関、管理者が話し合いの場を持ち、入居者の方と家族の希望が叶ったということあった。	月1回、ユニット会議を行って職員が活発に意見交換しており、リーダー会議や法人の合同会議でも意見交換しています。また、管理者は随時、職員と面談しています。職員は行事や備品管理、食材管理、環境整備などの役割を分担しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を向上させるための働きかけを日々、積極的に行い取り組んでいる。職員間でもそのことが意識されており短時間でも質の良いケアに繋がるよう努力や工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月、内部研修があり、一人一人に合った必要となる研修を受けることが出来ている。外部の研修にも個人に必要となる研修は管理者から参加を促され、勉強する機会となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣の施設へ見学に行き交流する機会を設けている。お互いの施設の優れている点は手本となり切磋琢磨され、意識することで自然とサービスの質の向上へと繋がっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初日や直後は特に本人に寄り添う姿勢をとり、孤立せず安心できる環境を作るよう努めている。本人が困っていることには改めて、十分に本人からの思いを聞き取り共感することで、少しずつ信頼関係を深めていっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	始めの段階で家族が特に気になる事を聞くようにしている。面会時には最近の様子を伝える際には、家族が気になっている事を中心に伝えるようにしている。それ以降も常に家族の思いを聞き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から必要としていることを聞き取り、一番に必要な事、その他の事を見極め、優先順位を決めて支援に取り組んでいる。その時に合わせ、優先順位は柔軟に変わり支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上で、共に生活する者同士といった姿勢をとり関わるようにしている。どんな場面においても入居者と共に行うようにしている。個人によってはここでの暮らしの自分の役割として捉えている方も多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の力だけでは人数的にも限界があり、家族に連絡を取り協力を仰ぐことがある。過去には本人と家族に様々なことがあったとしても、家族としての絆が途切れないよう間に入り、職員は家族とも関係を深めるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、その場所に行ったり馴染みの人の家を訪ねたりしている。遠慮して表にあらわさない人に対しては、こちらから関係性のある場所に一緒に行くことで生活に潤いが出たり、大切な事を忘れないよう支援している。	利用者の職場の同僚が訪ねて来ることがあります。年賀状作成を手伝ったり、電話のやりとりを支援しています。利用者の希望に合わせて、墓参りや馴染みのスーパー、自宅周辺などへの個別の外出支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を見極めることで、入居者同士が上手く関わり、時には支え合っている。他者と上手く関係性を築くことが難しい方に対しては、職員が間に入りながら他者との交流する機会を作り、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関係性を大切にすることで新たな相談を持ち込まれることも多く、一度退居しても再入居したり、親族が待機者になることも多い。相談には随時、対応し良好な関係が継続できるよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の希望を汲み取るよう努めている。会話が出来ない方に対しては家族と相談したりしながら、可能な限り本人が望むであろう形を取り入れるよう取り組んでいる。	半分以上の利用者は言葉で思いを表現でき、難しい方の場合も表情やしぐさ、過去の経験、家族からの情報を参考に把握しています。センター方式のアセスメントシートを3か月毎に更新し、情報をきめ細かく蓄積し共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、これまでのサービス提供者から、情報を聞き取り、今後のケアに活かしている。普段の生活の中でも本人と会話し状況の把握に努め、家族からも負担とならないよう少しずつ昔の様子などを聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の様子を経過記録に記入し職員全員が、情報を共有し現状を把握できている。その様子は日々、変化しているが常に様子を見守っている為、随時、対応できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議を行い、職員全員から意見を集め話し合っている。面会時には家族からも意見や要望を聞き取り、普段の生活の中からも本人の様子を見て、直接本人に聞き取る場合もある。介護計画に速やかに反映させ、日々のケアに取り組んでいる。	介護計画は3か月毎に見直しが行われており、計画の作成・見直しにあたっては各職員が評価を提出し、意見を取りまとめています。日々の記録も介護計画を参照しながら行われ、さらに毎日、「本日のケア目標」を定めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に記載することはもちろん、細かな支援のアイデアなどは職員間の申し送りノートに記載し、小さなことでもすぐ実践できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	危険が伴わないものであれば柔軟に対応するよう努めている。管理者の協力をあり、個別対応も非常に多く行うことができ、支援後は満足感が十分得られた表情になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主に町内会の行事に参加することが多く相互に顔馴染みの関係となっている。特に子供達と触れ合う行事へ参加した際には生き生きとした表情が見られており、豊かな暮らしに繋がっていると思われる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿い受診支援を行っている。本人の様子を見て、速やかに受診できるよう日々、体調管理に配慮し小さな変化を見逃さないよう努めている。	協力医療機関による2週に1回の往診を受け、他のかかりつけ医の通院も、家族の同行が難しい場合はホームで送迎を支援しています。受診内容を個人毎の受診記録に記載して共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の方達には気軽に相談が出来、的確なアドバイスをもらい、実践し入居者の方の健康に気を配っている。訪問看護師のアドバイスでスムーズな受診にも繋がっていることが多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が病院関係者と密な情報交換と相談を行い、早期に退院できるよう努めている。又、職員もお見舞いに行った際には看護師に説明を求めたりし情報収集し入院している方の様子を把握するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族と話し合いの場を持って、家族としては終末期を想像することが難しく方針を決められないこともあるが、今後について真剣に考える時期だと家族が思うようなきっかけ作りにはなり、この後も話し合いの場を持ち続け方針を共有できるように取り組んでいる。	重要事項説明書の中に重度化や看取りに関する内容を盛り込んで利用開始時に詳しく説明し、重度化した場合はあらためて具体的な同意書を交わしています。過去に5件の看取りを経験しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルがあり、職員全員が周知しているが、実際の急変時には冷静に慌てず対応できるか不安という職員の意見も多い。日々の中である程度、自身で判断し対応する力を身に付けるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回以上消防の指導を踏まえた避難訓練を行っており、それ以外にも防火管理者の指導のもと自主避難訓練を様々な想定のもと行っている。町内会長には大いに協力して頂いている。	年に2～3回の昼夜を想定した避難訓練を実施しており、地域住民の参加も得ています。一方、職員の定期的な救急救命訓練の受講はまだ行われていません。災害時に必要な水や食料などの備蓄品を用意し、定期的に点検しています。	各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるように、計画的な取り組みを期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	にぎやかで明るい方が多く、冗談を言っているような場面がよく見られているが、その中でも人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに職員は言葉かけや対応に配慮している。	利用者への呼びかけは「さん」づけを基本にしており、言葉がけで気づいた点があればその場で注意しています。一部の職員は、外部のマナー研修や法人内のコミュニケーション技法などの研修に参加しています。ファイル類は適切に管理しています。	より多くの職員が、言葉づかいや接遇などに関して高い意識を持てるよう、定期的な勉強会や内部研修の開催を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表すことが出来る方であっても、遠慮している面も感じられる。就寝前や居室等、静かな環境で希望を聞き取ったりすることもある。又、家族にも意見を聞くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日のペースは大まかには決まっているが、本人の思いを優先し過ぎてもらっている。食事の時間なども薬に影響が無い限りは好きな時間に食べてもらっている。本人が決めたペースで生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	思い思いにおしゃれを楽しんでいる方が多いが、身体の不自由な方に対しては化粧など好みの色を選択してもらい職員が代行し化粧をするなど、個人に合わせた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の得意となる事が生かせるよう、食事の準備や片付けを一緒にいき、充実した時間となっている。冷蔵庫の中を見て食べたいメニューを決めて調理することもある。男性入居者に手伝ってもらっていることもある。	季節の食材を用いながらユニット毎に彩り豊かな食事が提供されており、写真を撮って事業所間でコンテストを行っています。味噌汁づくりや後片づけ、食器拭きに利用者が参加しています。職員も会話しながら一緒に食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の必要とする食事や水分量は職員全員が把握できるよう情報を共有し、統一した対応を行っている。短期間で状態は細かく変化するが随時、対応し機能低下している方には、別メニューで提供したりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けしたり、周囲に紛らわしい物を置かず混乱しないよう環境を整え出来るだけ自分の力で歯磨きが行えるようにしている。職員は仕上げやチェックをすると共に訪問歯科とも連携し歯科医や衛生士の指導を実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し排泄のパターンを掴んだり、排泄回数によっては医師に相談し薬を処方してもらい、健康面にも配慮している。介助を必要とする方達にも自身で行える動作はしてもらうなど、個人に合わせた支援をしている。	誘導が必要な方は排泄チェック表を作成しパターンを把握して、羞恥心に配慮しながら誘導しています。日中はなるべくトイレでできるよう支援していますが、介護度が進み、日中でも部屋で排泄用品の交換を行う方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易な薬の使用に頼らず運動や食事に日々、気を配っているが便秘の方が多いのが現状である。毎日、排便の有無を確認し定期的な排便を促すよう、個々の症状や傾向に合わせて取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個人の希望に出来るだけ浴えるよう支援している。特に曜日は決まっていなが、職員の配置人数により安全面等を考慮し、時間帯は決まっている。その時間の中で希望を聞き取り、入浴が楽しめるよう支援している。	土日以外の毎日、午前午後とも入浴可能で、各利用者が概ね週2回程度入浴しています。現在は入浴を拒む方はおらず、入浴の時間も希望に合わせています。同性介助を基本とし、2名での介助も行い、安心して入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活歴を基本として、時間や暗さ加減に配慮しながら睡眠を促している。入床時間も特に決めず本人の様子を見て入眠を促すことも多い。日中の休息も様子を細かく見て、安心して眠れるよう環境を整え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解するよう日々努め、薬内容が変わった時は特に症状の変化を職員全員が把握できるようバイタル表に記載したり工夫している。服薬法についても話し合い、誤薬を防ぐような様々な手段を講じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、個人の能力に合わせ取り組んだ結果、その方にとって習慣になった役割が多い。嗜好品、気分転換等も個人に合わせ、細かく対応することで大きな満足感に繋がっていると思われる。次への要望も多い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り要望に沿うよう努めている。職員配置の都合により遠くへ行けない場合は、庭の作業をしたり近場へ戸外に出る機会を作っている。個人の希望に合わせ、行事立案の際に反映させたり、個別の対応も行い、家族にも協力を仰ぐ場合もある。	日常的に近くの公園やお寺などを散歩しています。法人で10名乗りのリフト車を用意し、ユニット毎に頻繁に外出行事を行っています。外出先は、豊平峡や定山溪、円山公園、月寒公園、羊ヶ丘、天神山など少し遠くの場所にも出かけて楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に合わせ、一緒に買い物に出かけた際に本人に財布を渡し支払してもらったり、職員が支払った後の金額を伝え、職員と共に今回の支払金額について高いか安かったかを話し合ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会は少ない。電話は本人からの希望がある場合は随時、対応し、本人が掛けられる場合は任せ、掛けられない場合は代行している。又、職員が用事で掛けた後、家族と本人が話せるよう電話を代わるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、配慮し希望に沿うよう努めている。テーブルには季節ごとの花を飾ったり、ホール内の壁や居室には思い出の品や季節を感じられる物を貼っている。心地よい刺激を受けることで季節を感じたり、話題の提供に繋がるよう工夫している。	共用空間は食堂と居間が一体的で、窓も多く開放的です。壁には行事での写真やホーム便り、手作りの装飾などが豊富に飾られ、親しみやすい雰囲気となっています。温度や明るさも調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中で何箇所も、一人になれたり集団で過ごすことができるスペースを設け、それぞれの方が思い思いに過ごしている。一人の人がその時によって個人で過ごしたり、気の合った人と過ごす場面が見られている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	始めの段階では家族と本人が相談し居室内を整備しているが時間の経過と共に職員も入り、より本人が居心地良く過ごせるよう、本人や家族と相談しながら家具を移動したり、壁に好みの物を飾ったりしている。	居室にはベッドやたんす、装飾品など利用者それぞれが自由に馴染みのものを持ち込んでおり、居心地よく過ごせる場所となっています。壁には行事の写真やカレンダーなどを自由に飾り付けしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場には紙やのれんを使用して場所がわかりやすいよう工夫している。個人に合わせて席を配置し安全な動線を築き、身体の不自由な方にも自分の力で動いているといった実感が持てるような工夫をしている。		